

エコー下 PTA におけるエコープローブケーブルの取り回し

(医) 宝池会吉川内科医院 CE 部*診療部**

○亀井健太・兼田浩一・村石州啓

岩崎昌樹・吉川尚男・吉川昌男

【概要】

当院では PTA を医師一名、間接介助の CE 一名の計二名体制で行っており、エコープローブの操作中にケーブルが清潔野から逸脱しないよう医師が気を付けなければならず、操作が煩雑になっていた。

現在の環境で、安全かつスムーズに PTA を行うための方法を模索した。

【対象】

エコー下で行う PTA 全例

【方法】

カテーテル室の天井にカーテンレールを取り付け、S 字フックを吊り下げてエコープローブのケーブルを支える。

【結果】

PTA 中に使用するエコープローブのケーブルの取り回しを、簡単な装置を用いて改善することができた。

【考察】

医師のサポートを間接介助の CE が一人で行っている当院では、仕事量を減らすための試みは、安全な PTA を行う上で重要であると考ええる。

【結語】

本装置を使用し始めてから、ベッド配置やプローブカバーの届かない範囲のケーブルの取り回しなど、検討の必要な点はあるものの、医師がケーブルの取り回しに気を遣う必要がなくなったことで、PTA がスムーズに進行するようになった。現場での工夫を取り入れていくことで、限られた人員の中で業務を行っていくことが可能になるとと思われる。